

日刊 動労千葉

85. 4. 3

No. 1906

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

「60・3ダイ改」阻止〜「3・24三里塚」できり ひらいた力で、更に前進しよう

（3/29）銚子支部で職場集会



3月29日午後一時から、銚子運転区・講習室において、支部職場集会が開かれた。
「60・3」闘争、2・20ノ21非協力・安全確認行動闘争、3・24三里塚闘争等々連続した闘いをたたかいたぬき、こうした闘いの成功とちとつた意義も含めて、経過と総括、今後の85春闘を中心とした闘いにむけ意志統一をおこなった。



『本部』派を粉碎し、道理ある闘いを堂々とおし進めていこう

―西本支部長あいさつ―

集会は、早船支部書記長の開会宣言ではじまり、冒頭、西本支部長から、「60・3」闘争の経過と総括が報告された。

「本年一月十日当局は、『経営改革方策案』として一九九〇年までに一二万四千人の主要員合理化との考え方をうちだしてきた。動労千葉は、これらの突破口が『60・3』のダイ改攻撃であるとして、国鉄のなかで唯一、あらゆる闘いを駆使し闘いぬいてきた。闘いの成功と勝利は、直ちに目に見えるというものではないが、必ずわれわれの未来にとって展望のあるものをかちとつた。しかし、今日 全国の運輸職場では、3・14以降労働条件の悪化も含め、大量の過員が生みだされた。同時に当局は、『過員対策』攻撃をかけてきている。これに対しわれわれは、動労千葉の基本通り闘いぬいていこう。当面、当局より提案された『当直業務の補助』等、組合の対策として取り組み、全体で意志統一をはかり、動労『本部』派の

闘いは、いよいよこれからだ！

つづいて本部から片岡執行委員があいさつにたち、「今次『60・3』ダイ改二・二〇一〜二一から三・二四三里塚まで支部執行部を先頭に全組合員が団結して闘いぬかれたことに本部を代表して敬意を表するとともに、動労千葉の闘いは、むしろ当局による、3・14ダイ改強行を出発点として闘うことであり、ますます、今日まで闘いぬいた力量をさらに全体でうちかためて闘いぬいてほしい」とあいさつがあつた。

このあと、早船書記長より、現在の現場長交渉の内容とこれからの闘いについて報告され、これに対する全参加者からの質問・意見の交換などを十分に討論した。

こうして、三時間三〇分に及ぶ集会は、成功裡に終了した。

サクル場からのお知らせ

春季ソフトボール大会 4月24日（日）県営ホッケーセンター（千葉市）

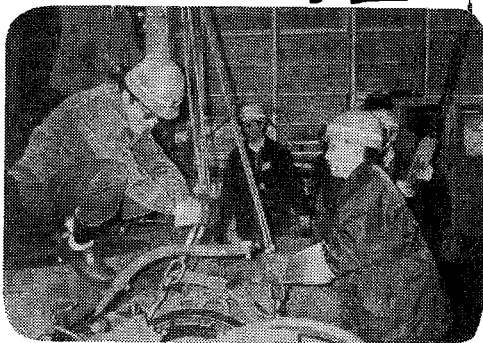
の怒りはおさまらない。だが、それ以上には頭にくるのが動労「本部」革マル分子どもの大裏切だ。

われわれは、宣言するノ！

不屈に、ねばり強く抵抗つづける三里塚農民に連帯し、動労「本部」解体・一掃をトコトンおしすすめ、闘う国労組合員との連帯をひろげ、国鉄決戦勝利にむけて精一杯やろうノ！
みんながんばろうぜノ！

台検廃止 = この怒り いつまでも！

寄稿 幕張支部 下生



今日三月二十八日をもって台検がなくなる。言いようのないさみしさと怒りがこみあげてくる。この怒りをいつまでも忘れないぞノ！ みんなの気持ちも同じだろう。
最終日の台検の作業場はいつものにぎやかさは感じられない。検長も何かさみしそうである。それもそのはず、

永い間、一件の事故もなく完全な車両整備を目指し、毎日がんばってきたんだ。なぜ廃止するのか、廃止して安全は大丈夫か、こうした問題について当局は、一片の回答もなしに合理化のための合理化、人減らしのための廃止を強行した。
そうである以上、今後発生するいかなる故障・事故も責任は一切当局にあることをはっきりさせておこう。
オレたちは、当局や中曾根の労働者を人に見ないやり方を絶対に許しはしない。確かに闘いは簡単に勝利を得ないことも知っている。
しかし、必ず勝利するという決意と確信も充分あるのだ。中曾根内閣をぶっ倒し、行革を粉碎するまでオレたち

